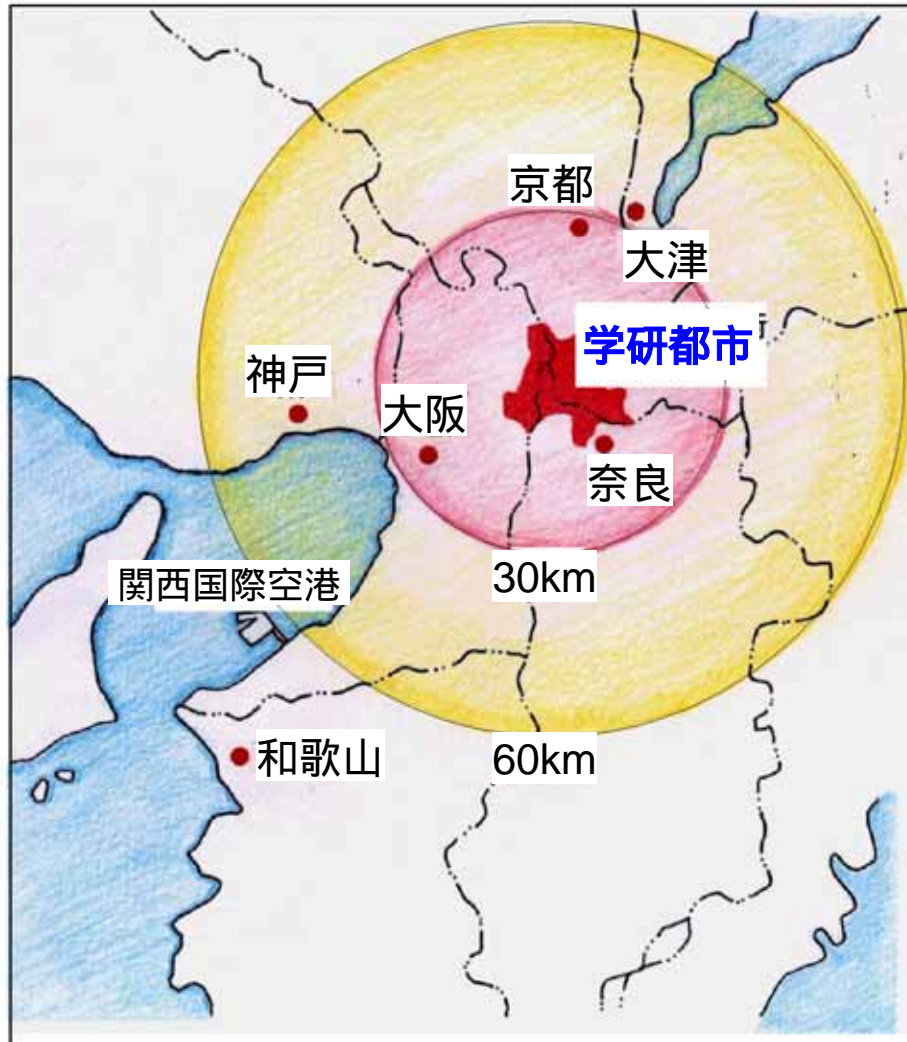


1. 学研都市の現状



関西文化学術研究都市 位置図

○位 置

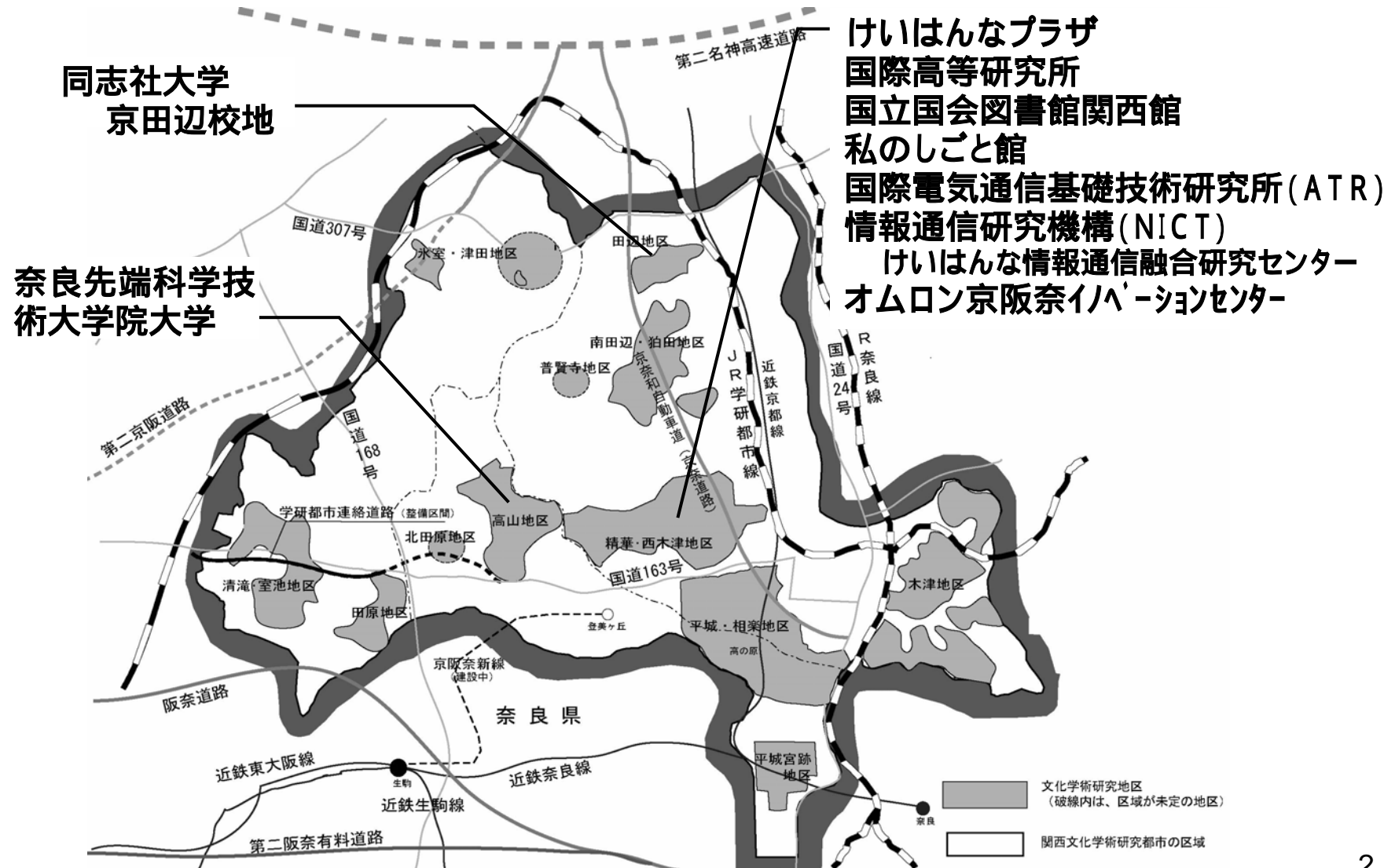
京都府、大阪府、奈良県にまたがる木津川左岸の京阪奈丘陵地域

京都府	京田辺市、相楽郡精華町、木津町
大阪府	枚方市、四條畷市、交野市
奈良県	奈良市、生駒市

(大阪、京都都心から約30km圏)

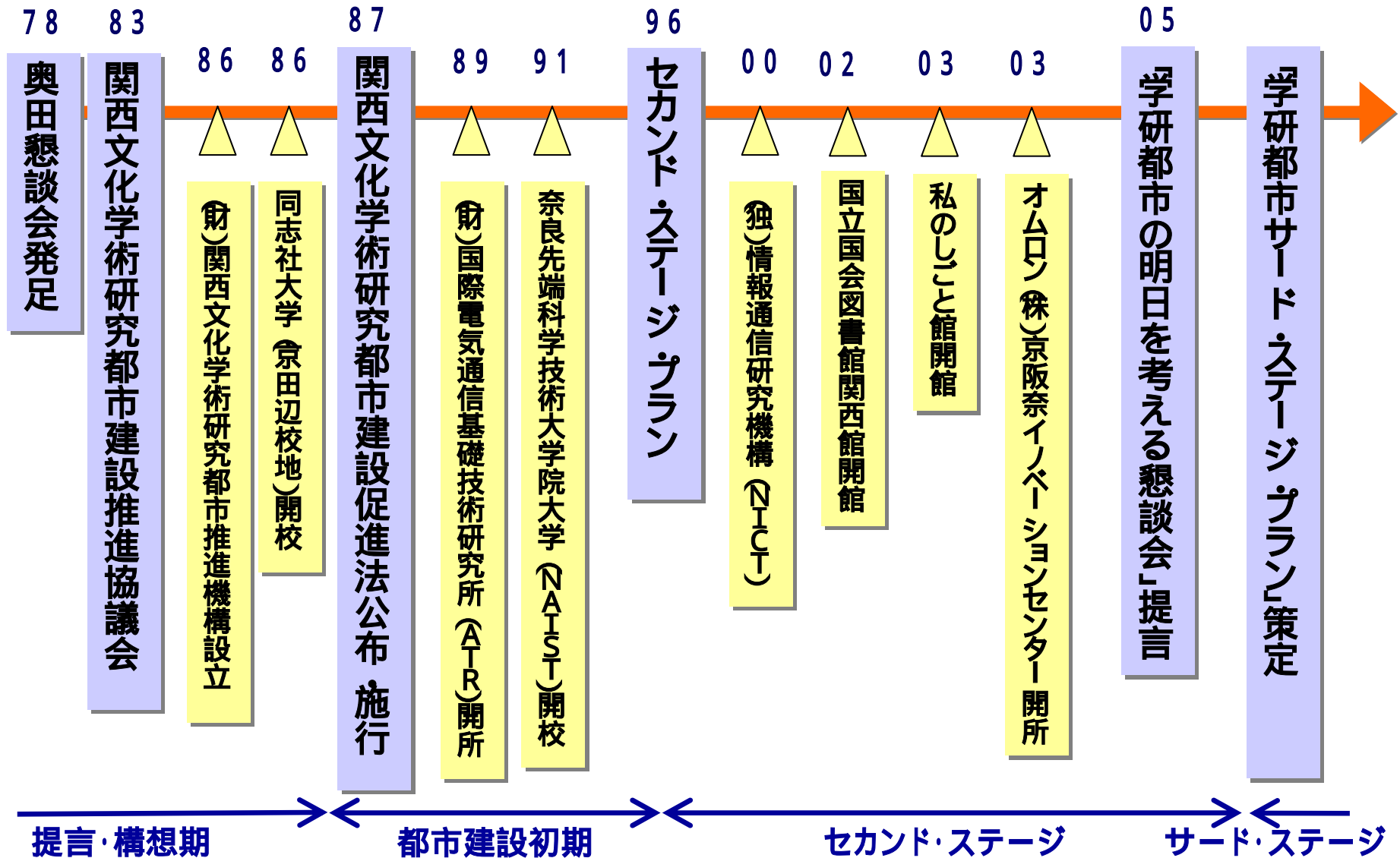
1. 学研都市の現状

学研区域と12の開発地区



1. 学研都市の現状

学研都市の経緯



1. 学研都市の現状

計画の進捗状況

<人口>

	計画(万人)	2005.4.1現在(万人)	進捗率
文化学術研究地区	21	7.4	35%
周辺地区	20	15.0	75%
学研都市計	41	22.4	55%

<文化学術研究地区の建設状況(事業着手面積)>

	計画(ha)	2005.4.1現在(ha)	進捗率
文化学術研究地区	3,600	2,364	66%

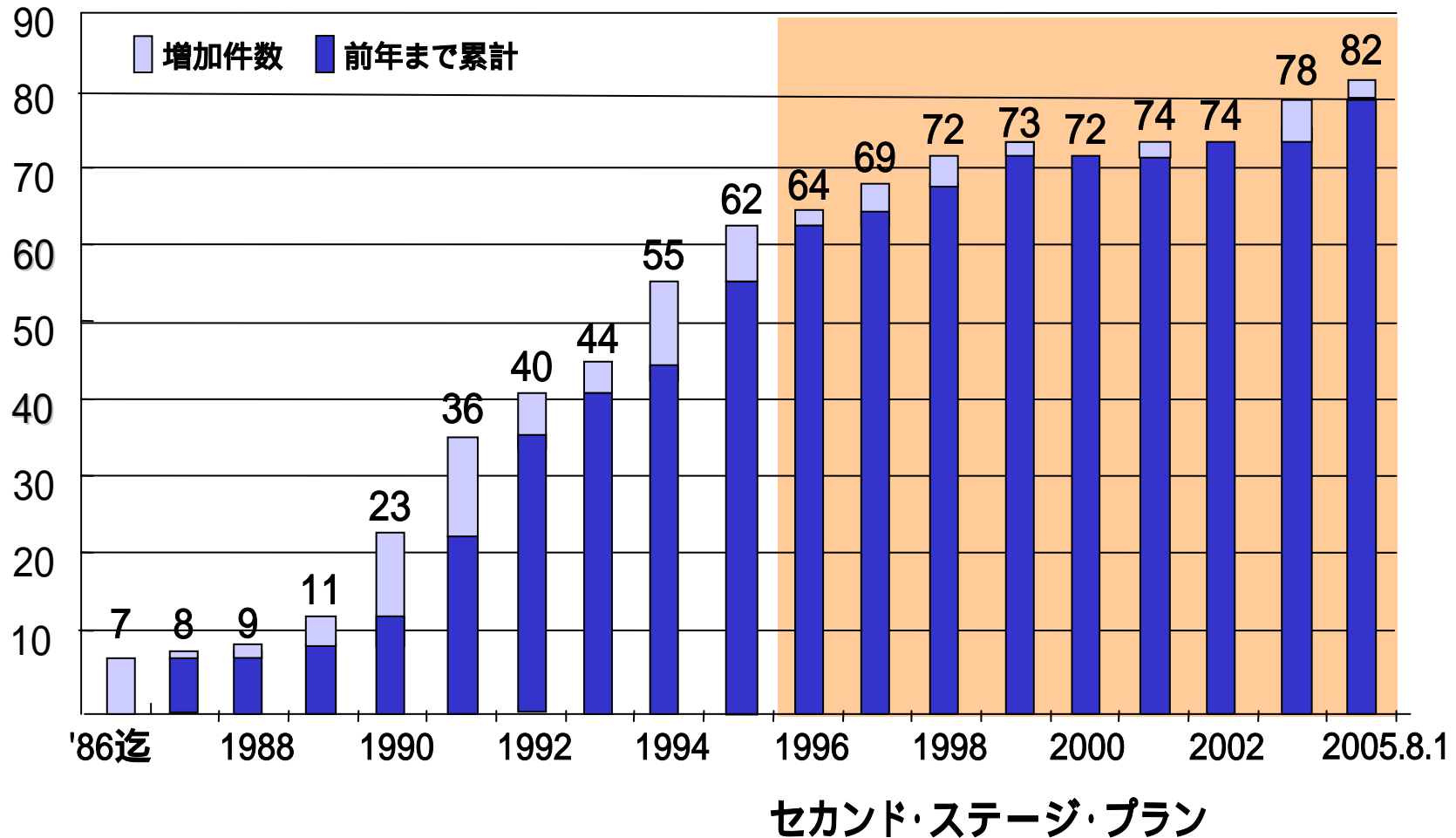
<文化学術研究施設用地における立地状況(立地施設敷地面積)>

	計画(ha) 注	2005.4.1現在(ha)	進捗率
文化学術研究施設用地	909.1	312.6	34%

1. 学研都市の現状

現在の文化学術研究施設等の立地状況

2005年8月1日現在合計82施設



2 学研都市における現状の課題

(1) 学研都市としての文化学術研究機関の 総合力の発揮が不十分

< 学研都市の立地の優位性、最大級の施設集積 >

	関西文化学術研究都市	筑波研究学園都市
計画概要	京都、大阪の都心から約20～30km 計画面積15,000ha 文化学術研究21万、周辺20万、計41万人	東京都心から北東約60km 計画面積28,400ha 研究学園地区10万、周辺25万、計35万人
人口面積	人口22.1万人「うち文化学術研究7.1万人」 概成面積1,632ha（'04.4）	人口19.5万人「研究学園7.0万人」 概成面積2,654ha（'04.4）
施設等	82施設（'05.8）	170機関（'05.4） 周辺地区も含む
研究者数	5,102人（'05.4）	約12,000人 周辺地区も含む
国内特許	出願数:1,559（'03年度） 取得数: 283（'03年度） 平成15年度研究実態調査回答機関のみ	出願数:3,069（'03年度） 取得数:1,007（'03年度）
研究発表 会・シンポ ジウム等	147件（'03年度）	272件（'03年度）

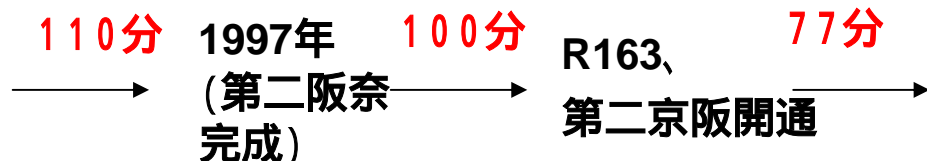
2 学研都市における現状の課題

(2) 都市の賑わいや利便性の不足

関西空港までのアクセス



関西空港まで



クラスター間のアクセス

<けいはんなプラザ 同志社大学>
(精華・西木津地区) (田辺地区)

現状 : 約9.6km 約19分

八幡木津線の平日平均旅行速度約30km/時の場合
(資料:道路交通センサスH11)



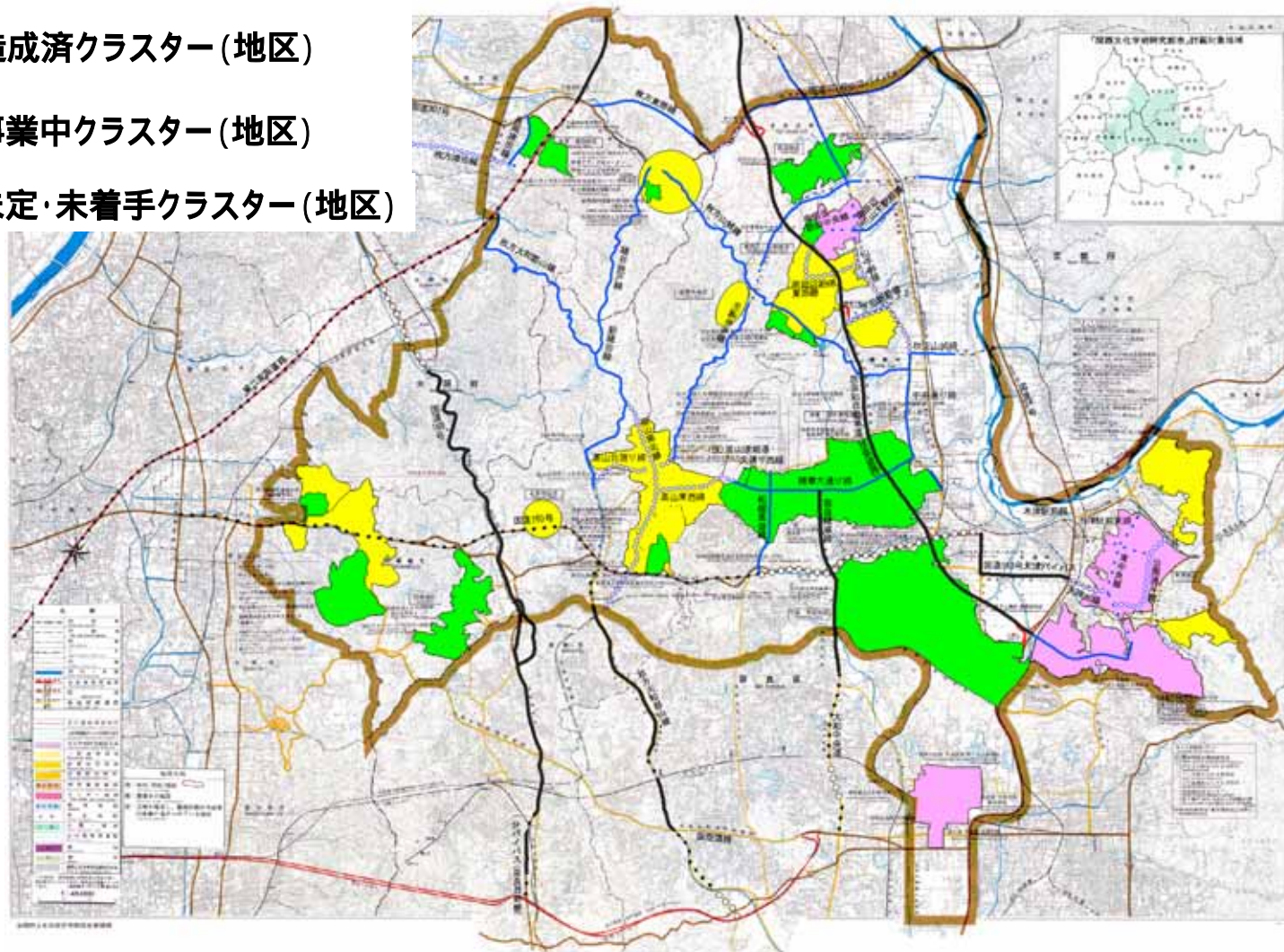
山手幹線完成後 : 約8.5km 約10分

平均旅行速度を約50km/時と仮定した場合

2 学研都市における現状の課題

(3) クラスター(地区)開発の遅れ、多くの低未利用地の存在

- 造成済クラスター(地区)
- 事業中クラスター(地区)
- 未定・未着手クラスター(地区)



2 学研都市における現状の課題

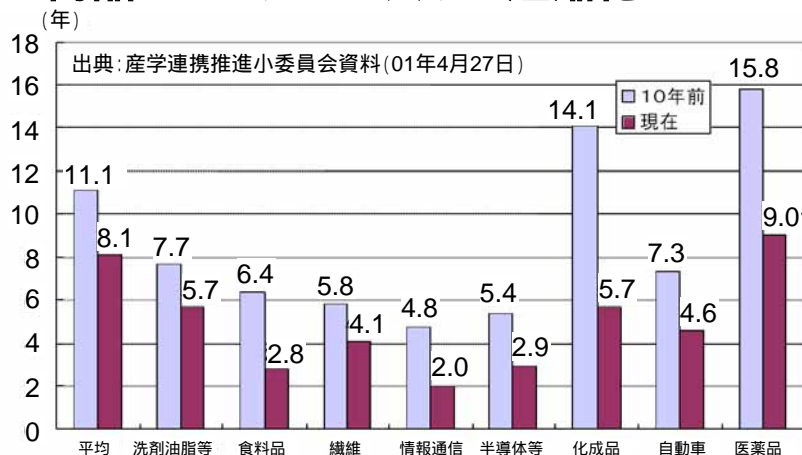
(4) 交通基盤整備の課題



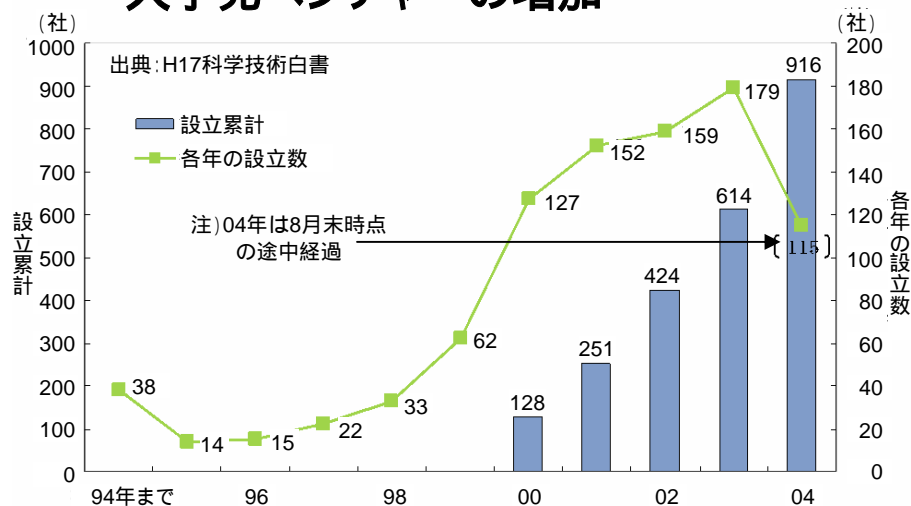
3 踏まえるべき新たな時代変化

研究開発に求められる機能の変化、新産業の創出に向けた課題

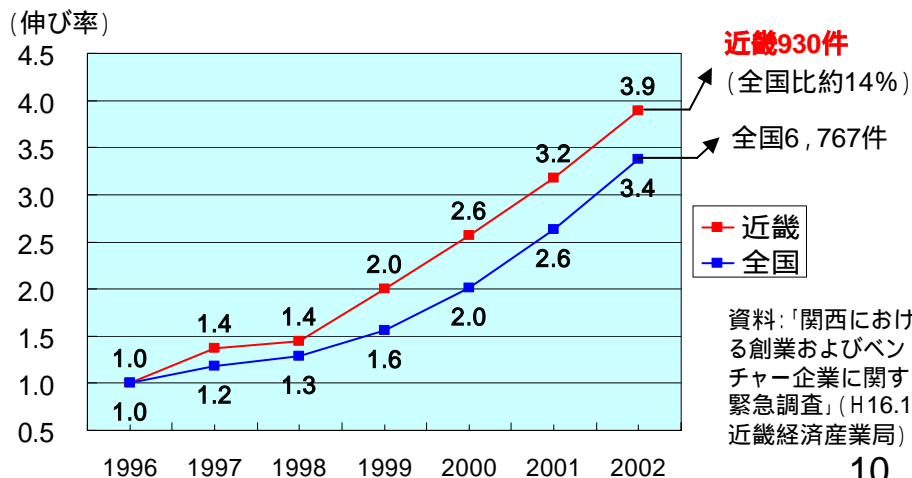
商品のライフサイクルの短縮化



大学発ベンチャーの増加



国立大学等の「企業との共同研究」の実施状況



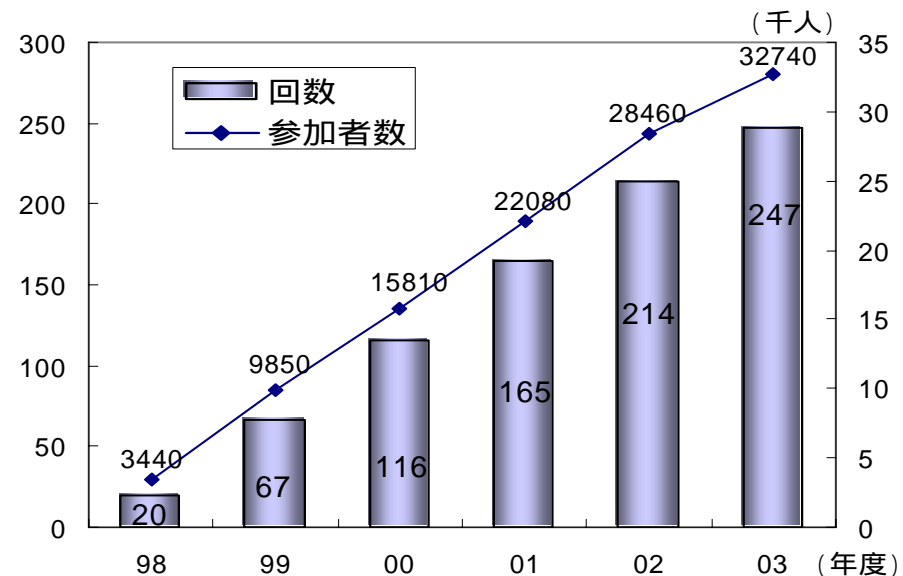
3 踏まえるべき新たな時代変化

新たな文化の広がり、ライフスタイルの多様化

学研都市における
里山再生の活動



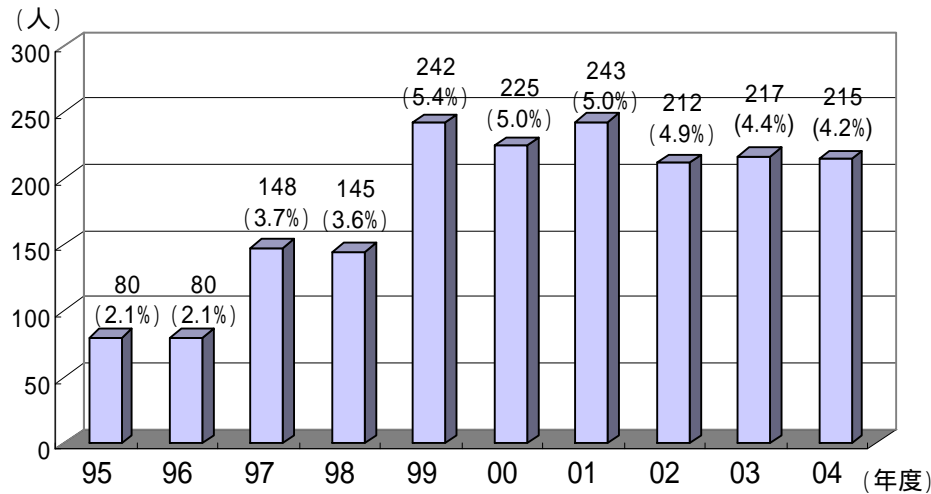
けいはんなプラザ・プチコンサートの
開催状況(累積)



3 踏まえるべき新たな時代変化

国際化の著しい進展に伴う学術研究都市の課題

学研都市の外国人研究者の推移



「都市開き10周年」記念 国際シンポジウム



3 踏まえるべき新たな時代変化

新たな都市の運営にかかわる課題

- ・研究施設、企業の集積
- ・共同研究による成果
- ・国際化、グローバル化への対応の必要性

- ・都市基盤整備の進捗の遅れ
- ・都市びらきから10年、街の成熟と人口の着実な増加
- ・地域に密着した市民活動の展開

都市運営課題への対応

都市建設課題への対応の促進